

ビアガーデンの歴史



ミュンヘンのビール祭り「オクトーバーフェスト」

©FooTToo/Shutterstock.com

古い言い伝えによると、ビアガーデンができたのはカトリック教会と2人の聖人のおかげだと言われています。

バイエルン地方の1539年の醸造令に従えば、ビールは聖ミハエルの祝祭日(9月29日)と聖ゲオルクの記念日(4月23日)の間の期間しか醸造されることが許されていませんでした。ビール醸造にとって火災の危険性が最も高まる季節のため、夏場の醸造は禁じられていたの

です。そのため、ビールは夏場の貯蔵に耐えられなければなりません。そこでビール貯蔵庫が作られました。これは、たとえばイーザー川の斜面に作られました。よりよく冷やせるよう、冬の間調達した氷を使用したり、木陰をもたらしてくれるよう栗の木を植えたりしました。このことから、栗の木は今日でもビアガーデンにとっては伝統的で象徴的な木です。ビールを新鮮で冷やして売るため、木の下にベンチを置き、市民が気軽に飲みに来られるよう工夫がなされました。これでいい思いをしたのは宿泊施設です。醸造所のおかげで、ビアガーデンを訪れるお客をレストランに誘うことができたからです。一方で、醸造所はみなバイエルン王ルートヴィヒ I 世を恨みました。というのもこの国王は、醸造所はビールだけを販売することができ、食べ物を提供してはならないという法令を定めたからです。栗の木陰の下で1リットルジョッキでビールを楽しみたい人は、自分で食べるものを持参しなければなりません。この伝統は、古典的なビアガーデンには今でも残っています。

もちろん、今日ではビアガーデンに行けば何か食べるものは手に入ります。それと同時に、自分で食べたいものを持ち込むこともできるのです。バイエルン王が定めた法令は、今日も生きています。